

答え合わせ・解説

問1	答え 2 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。
問2	答え 1 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道徳的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問3	答え 4 百済	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。彼らは日本の豪族と協力し、土木工事や農具の製作、さらには学問や宗教の導入に多大な貢献をしました。当時のヤマト政権にとって、百済は重要な協力関係にある国でした。
問4	答え 3 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。
問5	答え 2 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学びきっかけとなったとされています。
問6	答え 2 大阪府堺市	大阪府堺市にある大仙古墳は、日本最大級の前方後円墳として知られており、周囲の古墳と共に「百舌鳥・古市古墳群」を構成しています。この地域は当時のヤマト王権の中心地に近い場所であり、強大な権力を持った支配者が存在したことを物語っています。
問7	答え 2 ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。
問8	答え 1 聖明王	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。欽明天皇に献上された仏像や経典は、日本にとって初めて本格的に触れる異国の教えでした。これが日本に初めて正式な宗教としての仏教が根付くきっかけとなりました。
問9	答え 2 南朝	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。朝貢と呼ばれる形式をとることで、中国皇帝から将軍の号を授かり、国内の支配を強化しようとした。
問10	答え 1 倭の五王	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問11	答え 4 大仙古墳	大仙古墳（伝仁徳天皇陵）は、墳丘の長さが約486メートルにも及ぶ日本最大の前方後円墳です。三重の濠（ほり）に囲まれた壮大な姿をしており、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の王権が、いかに巨大な労働力や土木技術を動員する力を持っていたかを象徴する遺跡です。
問12	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。大仙古墳などはその代表例です。これらの古墳には、亡くなった首長の力や地位を示す副葬品が多数納められていました。
問13	答え 1 ワカタケル大王	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に金象嵌で記されています。これは、この大王の権力が東国から九州まで、列島の広範囲に及んでいたことを如実に示しています。一般的には、記紀に見える雄略天皇と同一人物だと考えられています。
問14	答え 1 ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問15	答え 1 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問16	答え 1 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。